

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1971000128		
法人名	社会福祉法人 ぎんが福祉会		
事業所名	グループホーム雀のお宿		
所在地	山梨県甲斐市下今井1730		
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 8 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 4 年 1 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『その人なりの生活に寄り添い、安心した尊厳のある暮らしを保証する』を理念に家族的な雰囲気の中、一人ひとりの生活スタイルを大事にしている。広い敷地内には、枯山水風の日本庭園や畑があり、収穫された食物を食事時に提供している。また、障がい者のグループホームを併設しており普段から交流を図ることで利用者同士お互い良い刺激となる関係を築いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症の方でも共同生活をしながら、今まで地域で暮らしてきて、これまでと変わらない家庭的な生活を営むことを目標に支援されていました。できることを楽しみ、おやつを作ったり、障がいを持たれた方の畑と一緒に作業しながら、野菜を作ったりされています。自然豊かな住宅街にはお寺があり桜の花が見られます。コロナ禍でなければ地域の夏祭りなどに参加され楽しみもありました。感染の心配は未だ消えませんが、安心安全を心がけて地域と関わり、一人ひとりがここで生活ができることが楽しいと感じる支援を行っていました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム雀のお宿**

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『その人なりの生活に寄り添い安心して尊厳ある暮らしを保証する』という理念に基づきサービスを実践し、また、共有が図れるよう理念を職員会議の次第に印刷している。	事業所の理念は、毎月行われる職員会で理念に基づいた支援がされているか検討し、利用者への支援の疑問を共有されていました。職員会は皆の居る食堂兼ホールで行っていました。管理者・職員・利用者みんなで理念の共有を図っていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や地域行事への参加を積極的に行ったり、子供110番に登録しており、子供達が安心して登下校できるよう声かけすると同時にAEDを設置し緊急時の対応も行っている。	コロナ禍のため地域との繋がりに制限がありますが、自治会に加入しています。自治会の運動会、歩け歩け運動等は参加できませんが、子供110番に登録し地域との繋がりを積極的に行っていきます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で現在の利用者の状況を説明し地域への理解を図ったり、子供110番、AEDの設置、夏休みの学生ボランティア体験を通じて子供たちが利用者やと直接触れ合う機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ渦の中、運営推進会議の開催は控えている。(令和2年1月開催が直近)	運営委員会は、以前の地域の役職者、家族、利用者等が参加し、2か月に一度開催、サービス状況や地域の動向等情報交換が行われていました。現在はコロナ感染予防のため開催されていません。家族には個々の様子を電話や文書で生活状況を伝えていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談事など電話にて対応して頂いている。また、メールなどを利用しての情報提供を頂いている。	健康長寿推進課窓口でコロナ感染や、ノロウイルス感染の対応について相談やアドバイスを受けていました。また個々の利用者状況について、電話やメールにて情報のやり取りを行っていました。コロナ禍でも協力体制は取れていました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の弊害を職員間で共有し、目に見える拘束以外(言葉の拘束)にも注意している。防犯上の最低限の施錠に努め、天気の良い日には玄関や窓を日常的に開放している。	身体拘束については年1回職員研修を行い支援の中でゼロを目指し意識の向上に努めていました。日常の言葉がけ、言葉遣いには些細なことでも意識を持って関わっていました。天気の良い日は施錠しない玄関から職員と自由に枯山水の庭を楽しんでいました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で行なっている「虐待防止」に関する研修会に全職員が参加し虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方については、必要時、後見人と相談している。成年後見制度について、職員間で学ぶ機会は少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に沿って説明を行ない同意を得ているが、一度に全てのことを理解するのは利用者も家族も大変な事なので、疑問に思った事はいつでも相談して欲しい旨を説明している。また、話しやすい環境作りにも努めている。		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム雀のお宿**

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価
			ユニット名( )	実践状況
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ渦の中、運営推進会議の開催は控えているが以前は会議にも参加頂いていた。いつでも意見や気付いた事など伝えて欲しい旨、伝えている。また、毎年1回家族会議を開催し要望や意見をお話し頂いている。(家族会議もコロナ渦の中、開催は控えた。)	運営会議はコロナ禍で控えていますが、個々の家族に入所の様子や行事参加などの日常生活について報告していました。来所された家族にはグループホームの様子やサービスの内容について意見を頂き運営につなげていました。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議では全職員に発言してもらえるよう環境を整えている。職員会議は毎月1度行ない、全職員が参加できるよう配慮している。	職員会は毎月開催し、職員の意見や疑問に対応されていました。また参加できない職員は事前に管理者に意見を伝え、会議の場で検討がされていました。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況など、有資格取得者はパート職員から正規職員になるなど、向上心をもって働いて頂ける職場を目指している。(パート職員⇒正規職員)	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要と思われる研修には参加を促し、研修終了後は研修記録を他の職員が閲覧できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で知り得た仲間などで情報交換などを行ない、活動の幅を広げられるよう努めている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境が変わることの不安や要望に傾聴し寄り添う事で、不安を解消し安心して生活が送ることが出来る配慮をしている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望など何でも相談して頂けるよう声をかけると共に、相談しやすい環境づくりにも努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護サービスにとらわれず多様なサービスの利用や可能性や方向性を提案している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お茶を一緒に摂ったり、昔の話などしながら、お互いに尊重しあえる環境作りに努めている。	

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム雀のお宿**

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、利用者の近況を郵送にて報告している。面会は基本的に365日いつでも可能。来所しやすい雰囲気作りに努めている。(コロナ渦の中、玄関先での対応)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の友人が訪問してくれたり、家族と共に自宅周辺へのドライブなど、今までの生活の中で行なってきた事を支援している。	コロナ禍で制限がありますが、玄関では検温や手指消毒を行い安全を図りながらの面会をしていました。帰省希望者には家族に自宅までドライブしていただき、今までの生活を大切に支援につなげていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係性を配慮し、基本的に座席は決めている。会話に上手く参加できない場面がみられる場合は、職員が声をかけ話に参加できるよう話題の提供を行なっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退所後も状態の確認や方向性について、ケアマネージャー、行政と連携を図りながら相談している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向を確認し、体調の変化や様子、安心した表情を観察したり、暮らしてきた背景を考慮しながら努めている。	思いや意向は言葉で把握できないことがあり、体調の変化や安心した表情を探っていました。結婚して農家に来た方には作っていた農作物で作った郷土料理の話や、家族の方のお名前を話の中に入れて思い出していただいたり、今までの生活を大切にするようにしていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで暮らしてきた生活環境などを十分に理解できるよう、細かいアセスメントを行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々生活している毎日は同じではない。その時、その場に応じた心身状態を把握し思いを汲み取れるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の意向を第一に優先すると共に、専門的見地からの提案を行ない現状に即した、本人の為の計画作成に努めている。	ケアマネージャーより家族に生活の様子をお伝えして、家族から支援の要望を聞き、個々のサービスにつなげていました。要望に対しては法人内の看護師と協力しており、健康管理では特に排便状況や足浴を介護計画に取り入れていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を用いて、職員間で把握し個別のケアを行なっている。また、実践した事に関しては記録や申し送り等を行ない情報共有を行なっている。		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム雀のお宿**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズに対応し、他職種との連携を図り介護サービスにとらわれず、多様なサービス利用の可能性や方向性を提案している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護サービスにとらわれず、地域資源等多様なサービス利用や可能性や方向性を提案している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携機関が主な受診場所となるが、内科医の為、受診すべき(整形外科、皮膚科など)適正な医療機関にて受診している。	グループホームでは、通院は家族が行うことになっていますが、法人で内科の嘱託医がかかりつけ医として対応していました。診察結果は家族にも報告され健康管理の情報の共有ができていました。その他の受診は家族の協力で行っていました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康チェックを毎日行なっている。また、異常がある時は看護師に相談・報告を行ない指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には、書面や口頭での連携を図るほか、電話にて状態や今後についての話しをしている。また、カンファレンス等への出席依頼があった際には同席している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に話し合いの機会をもち、また、家族とも連絡を取りながら希望を優先するよう努めている。ターミナルケアの実践例もあるが、医療行為が必要な場合は入院を勧めている。	入居時にターミナルケアの契約は行われており、本人・家族等と健康管理を行い必要に応じ医療と連携をとる体制になっていました。法人内の看護士との協力体制もできており安心が示されていました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が消防署の行なう救急救命訓練を受講し、毎年再確認のための研修会を開催している。また、施設内にAEDを設置しており使用方法の勉強会も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に何回かの防災訓練を実施している。また、地域の防災訓練にも参加している。	防災訓練は年に何回か行なわれていました。水害や土砂災害の心配の少ない地域ですが地域の協力、避難個所の確認もされていました。同じ建物に障がい者のグループホームもあり職員の協力体制もできていました。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性や尊厳を大事にし、言葉かけに注意している。排泄には職員間だけでしかわからないように言葉を工夫している。	一人ひとりのプライバシーには配慮がされています。利用者は男性2名女性7名です、職員は女性のみですが、男性に介護が必要な時は同じ建物内の障がい者担当の職員が介助に関わる協力体制ができていて同性介護が行われていました。	

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム雀のお宿**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望等が言いやすい環境作りや言葉かけに配慮している。思いが言葉で表出できない方には表情等多面的に捉えるよう職員が心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活歴や現在の状態を考慮し、各自が自由に過ごせるよう務めている。食事は定時時間があるが本人のその日のペースに合わせてずらしたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きなデザインや色などの洋服を家族の方に用意してもらったり、職員が準備している。就寝前には寝間着に着替えるなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理に携わることはないが、季節の野菜など給食で提供される副菜や季節の行事メニューなどの話しをしながら楽しい食事時間になるよう提供している。片付けができる方には、下膳などお願いしている。	食事は委託で行われていますが、季節や行事が組み込まれた献立が提供されていました。またご飯やみそ汁はホームで作っており、職員が持ってくる野菜の下ごしらえをしたり、おやつには誕生会のケーキ作りも行われ食の楽しみを味わっていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調を考慮しながら、主食の白米を普通食からお粥に対応している。水分量確保の為に、おやつ時にゼリーやヨーグルトなどの提供を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体状況を把握し、出来るだけパットでの排泄がなくなるよう、時間を決めてトイレ誘導を実施している。また、職員間で排尿や排便の隠語を使用し羞恥心にも配慮している。	できるだけ排泄の自立に向けて取り組み、パット等活用されていきました。入所時からの改善はありませんが、個々のペースでのトイレ排泄に力を入れていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量のチェックを行ない、水分量が不足しないようおやつなどの時間にゼリーやヨーグルト、乳酸菌飲料の提供を行なっている。また、便秘時における対応が誰でもわかるように、一覧表を作成している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日には毎日、入浴は可能。夕方から夜にかけては障がい者メンバーが入浴する為、対応できない事が多い。	入浴は週2回午後の時間に行われています。1対1の支援で行っていますが必要に応じ補助の介助ができていました。同性介助に配慮され他事業所との協力も行っていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの安眠できる環境作り(寝具や調度、室温)に努めている。		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム雀のお宿**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を落としてしまったり、飲み忘れる事がある為、職員が管理している。食事時に手渡し、服薬の確認をおこなっている。認知症の薬の説明は利用者にはしていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日の生活の中で、一人ひとりに合った役割を見つけ本人の力を最大限に活かす配慮をしている。また、日々の暮らしの中で楽しみを見つけたり、外出を行なったりと気分転換を図れるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば、出来る限り外出している。季節の外出としては、花見(桜)、コスモス畑への散歩など行なっている。	コロナ禍のため希望の外出には応じられていませんが、家族の協力や安全対策を行い、お花見やドライブを楽しんでいました。家族の中には息子さんが来て少しの時間、帰省をしている方もいました。感染対策を行い楽しみの提供に配慮されていました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある方には家族の了解のもと、お金(財布)を持っている方もいる。日常的には、家族から「預り金」の形で現金を預かり対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族に電話し取り次いでいる。また、家族からの電話に出て頂き、話しをする事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には季節の貼り絵や創作等を飾り、玄関には季節に応じた大型な飾りを掲示している。	居心地の良い空間提供に気を配り、玄関に正月飾りやホールにはみんなで描いた干支の絵、お雛様の絵やクリスマス飾りを楽しんでいました。食堂となっているホールは明るく、枯山水の庭が見られる窓があり気持ちの良い空間となりました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下等に椅子を置き、一人でも外の景色を眺めたり日向ぼっこできるような環境をつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物の持ち込みは自由。家族の写真やぬいぐるみなど置いている方もいる。	居室には今までの生活を大切に、使い慣れた品々があります、特に家族の写真は多く飾られていました。食事の食器類は今まで使っていたものを持ってきていただき、今までの生活を感じられるようにされていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合わせた自立して行なえる事を見つけ、本人の力を最大限に発揮できるような支援に努めている。		